

第1回 臨床+ α セミナー

報告書

謝辞

「臨床+ α 」では、2008年2月23日に、『第1回臨床+ α セミナー～若手4人と「臨床+ α 」なキャリアの可能性を探る～』を開催いたしました。

本報告書は、第1回セミナーの要旨、開催当日の様子などをまとめ、ご支援下さった方々を中心に、我々の発表の様子や参加者からのアンケート結果をお伝えするものです。第1回の開催のため、主催者側にも不慣れな面がありましたが、開催にあたって、様々な業界からたくさんの方々にご支援を頂き、本当に充実したセミナーを行うことができました。

セミナー当日には、これからの医療を担っていく多くの臨床従事者、学生の方々に参加を頂きました。主催者側と参加者側が、互いの医療に対する熱い思いを活発に語り合い、会の趣旨に沿ったセミナーを行うことができたことも、主催したスタッフ一同の大きな喜びでございます。

あらためまして、この企画の趣旨にご賛同いただき、ご支援、ご参加して下さいました皆様方に、心から深く御礼申し上げます。

2008年4月
「臨床+ α 」スタッフ一同

セミナー・懇親会開催概要

第1回 臨床+ α セミナー

～若手4人と「臨床+ α 」なキャリアの可能性を探る～

日時：2008年2月23日(土)

セミナー：午後2時～5時、懇親会：午後5時～7時

場所：セミナー：日本青年館中ホール、懇親会：アーリーステラス外苑前

セミナー申し込みは、日経メディカルオンライン(日経BP社様ご提供)上にて受け付け、事前応募198名と、当初の予想を上回る数の申し込みを頂きました。応募者は、年齢は20～70代、職業は医療従事者、大学生、病院経営者等、また居住地は北海道から沖縄までと、幅広い層の方々からのご応募により、セミナー開催の運びとなりました。

当日参加者数

セミナー 116名

懇親会 74名



ご後援・ご協賛企業・団体のみなさま

本セミナーは、ご協賛企業・団体のみなさまからのご協賛金によって開催されました。スタッフ一同、謹んで感謝致します。また当日のセミナー、懇親会にもご参加下さったご協賛企業・団体のみなさまも多く、会場を盛り上げて頂きました。

後援

日経 BP 社 様

協賛(アルファベット・五十音順)

CEPEX 様

カプランジャパン 様

銀座ヒーリングアカデミー 様

二期倶楽部 様

マッキンゼー・アンド・カンパニー 様

ライフサイエンスマネジメント 様

リトルステップス 様

セミナー要旨

セミナー第1回の今回は、4名の若手医師たちが、+ α の可能性としてのキャリア形成について講演を行いました。

それぞれの発表では、+ α を得ようと思った経緯の説明とともに、公衆衛生、法律、政策、ビジネスなどの分野で何を学んだのか、これらの経験が現在の職業においてどのように活かされているか、また、今後どう活かしていきたいかという視点を中心として発表が行われました。

(次頁から、セミナー概要が記載されております)



演題:「+ α で臨床パフォーマンスを向上する」

「臨床アウトカムを最大化するには(患者さんに最大限の利益を得てもらうには)、臨床医学とは別の視点も必要」ということを臨床経験の中から感じ、それが自分の「+ α 」である公衆衛生学を学ぶきっかけとなりました。

もともと心臓外科医を志したのは、「アウトカムがクリア」「自分の腕で決まる」という部分に惹かれたからでした。ところが、実際は、QOL や患者満足度など白黒はっきりしない重要なアウトカムがあること、アウトカムは自分の腕だけでは決まらないことが分かりました。技術以外にも、医療行為の効率性・安全性・タイミング・適切性などがアウトカムを決める。また、個人レベルの質だけでなく、チーム、病院、さらには国や地域の医療制度の質も、個々の医療行為の質を決定する因子となる。つまり、目の前の患者さんに幸せになってもらうには、これらのことをすべて視野に入れ、多角的に医療を見つめる必要がある、と考えました。

ハーバード公衆衛生大学院のゴールは、パブリックヘルス領域におけるリーダーを育てること。

Clinical Effectiveness という専門コースでは、「最も適切で、倫理的で cost-effective な医療」を見出すために、臨床プラクティスを評価する分析的・定量的方法論を中心に学びましたが、所々でリーダーシップの重要性が強調されました。

臨床現場で活躍する MD/MPH とは、患者個人だけではなく、医療全体をもケアできる人。

MPH スキルは、エビデンスを創る臨床研究のデザインや分析だけではなく、既存のエビデンスの質を正しく評価することにおいて役立っています。それにより、エビデンスに基づく医療と経験に基づく医療をバランス良く実践できるようになったと感じます。臨床ベースの MD/MPH の仕事として興味があるのは、クリニカルトライアルや医療の質向上 (quality improvement)、ヘルスサービスリサーチ、データベースなどですが、いずれも個々の臨床アウトカムの向上につながり、かつ医療全体の質を上げることに役立ちます。

「+ α 」によって、視野が広がる、ネットワークが広がる、そしてキャリアが広がる。そのような人材が、臨床現場で求められるリーダー像だと思います。

一方、潜在的な欠点としては、目的なしの「+ α 」の追求は、時間の無駄、ただの学位・資格マニアに陥る可能性があります。まずは臨床現場において、目的意識をしっかりと持つことが大事だと思います。

演題:「医者はニュータイプへの革新を始めたのか」

私達の世代の多くが幼少時に見て育ったアニメの一つに「機動戦士ガンダム」があります。その中で、人類は宇宙戦争という新しい環境の中で新たな革新を始め、ある種の超能力を持った若者達が登場し始めます。同様に、目まぐるしく変わり続ける日本の医療環境の中で、若い医療従事者達も新たな能力に目覚め始めたのでしょうか？

「臨床+ α 」とは

私にとって「臨床+ α 」とは、「より良い医療を築くための飽くなき挑戦」であります。「飽くなき挑戦」ですから、新たな学位を取得して終わりなのではなく、その新しい学位を如何に医療の向上に役立てていくか、という点が重要なのだと考えます。更に一步踏み込むと、学位を取ることにはさして重要ではなく、本質は、如何に既成概念に捕らわれることなく、新たな視点から医療に貢献するか、という点にあると思います。

日本の医療は、質の高いサービスを、安いコストで全国民に提供してきました。ところが、患者さんの満足度を見ると、先進国の中でも最低レベルであります。更に、患者さんの不満は近年の医療訴訟の増加にも反映されています。何故こういった状況に陥ったのでしょうか。一体日本の医療には何が欠けているのでしょうか。そういった疑問に答えるためには、新たな視点から医療を見直す必要があると思います。

医者が法律を学ぶ魅力

まず、医学、特に内科では、沢山の情報から一つの診断を導くという、収束的な思考プロセスを辿りますが、法律では、しばしば一つの事件をあらゆる方面から議論する、という拡散的なプロセスを辿ります。次に、法律も医学も様々なルールによって成り立っていますが、法律というルールは人間が作ったものであり、間違いも多いが修復が可能であるという点。そして、最後に、ロースクールは、如何に相手を議論で打ち負かすかを学ぶ所ではなく、対立する者を如何に上手く和解に導くかを学ぶ所であり、そういったテクニックはどの世界に行っても有用であると考えます。

「臨床+ α 」の可能性

率直には、まだ白紙であると思っています。ただ、白紙であるからゼロなのではなく、白紙であるからこそ無限大なのだと考えます。何か事を成し遂げるためには、あまり打算してばかりいはいけません。「医療の向上のため」という信念さえ持っていれば、流されることはありません。これからの日本の医療を担うのは私達の世代ですので、是非、「私達は最高の医療を提供している」と自負出来るように頑張りましょう。

演題:「医師として政策を仕事にする」**概要**

医療にまつわる政策の話題が報道されない日はないと言っても過言ではない。政策に医師として関わる選択肢として厚生労働省医系技官として行政で働く道を紹介した。また、医療政策を学ぶ場の例として、実際に留学させていただいた公衆衛生学修士課程(MPH)、行政管理学修士課程(MPA)を紹介した。

厚生労働省医系技官

厚生労働省には、医師免許と医学のバックグラウンドを持つ技術系行政官である医系技官という職種が存在し、医学の成果を制度(法律、予算措置等)で実現するために日夜政策に従事している。医学の知識、経験を「 $+\alpha$ 」としての政策に活かしたいという志を持つ方には適した職場であり、関心のある方は医系技官採用担当(ikeisaiyo@mhlw.go.jp)にご相談いただきたい。

医療政策を学ぶための大学院留学

ハーバード大学公衆衛生大学院 MPH 課程においては、医療政策管理学や国際保健学等の専攻において、客観的かつ根拠に立脚した政策に必要な、科学的根拠の創出、評価、政策応用の手法等を学ぶためのカリキュラムが組まれており、医療政策を体系的に学ぶ環境が用意されている。

同大ケネディ行政大学院 MPA 課程においては、医療を含む公共政策の実現のためにリーダーシップ、マネジメント、アナリシス領域が必修となっており、例えばリーダーシップ論、コミュニケーション技法、交渉術、民間のマネジメントやマーケティング手法を行政施策に応用するためのコース等が用意されている。

両大学院とも、社会に実際に貢献するためのリーダーシップ養成が強調されており参考になった。

おわりに

医療従事者として政策に携わる道は一般的ではないかもしれないが、政策を通じて医療をよりよくしたいという志を持つ方には一考に値すると思われる。

演題:「自分のキャリアを設計しよう～MD/MBA でみえたもの」

医療に何か足りないという問題意識と解決のための「+α」

医療現場で約6年働いた中で感じたのは、医療の諸問題を解決するための知識、人材などが業界内に不足している、ということ。その解決のために、多様な人々の考えをうまく整理し、まとめて、方向性をもった動きにしていくスキルが必要だと考えた。そのため、経営学を学ぶ、つまり MBA の取得を目指すことにした。この道に真剣に取り組むために、リーダーシップ教育を主眼に置く Harvard へと出願した。

ビジネススクールでは、価値の提供で対価を得ることがビジネスの本質であり、それを持続的に運営することが経営の本質であることを学んだ。このことは、ビジネスを医療と言い換えても通じることであると思う。そして、医療価値とその向上を考える上で、これらの学びと自分の臨床経験が活かされると考えている。

キャリアで大事なこと

留学は、結果的には大きなキャリアの転換となったが、自分のビジョンは変わっておらず、必要な Knowledge、Skill、Attitude といった手段が変わっただけ、と思っている。キャリア転換で大切なのは、自分の人生の目的と手段を見失わないようにすること。そのために、自分の得意なもの、生かせるものと、自分に必要なもの、欠けているものを分析することが重要だと思う。

臨床キャリアの特殊性

臨床でのキャリアは、基本となる資格・免許の有無を軸にしており、個々の能力を主観的或いは客観的に判断・比較することが少ない。また、資格保有による潜在的な職への安心感も臨床従事者の特殊性の1つである。さらに、他業界を知らないために、臨床に従事することの意義を見失うことも稀ではないと考えている。

しかし、臨床現場はチームワーク、リーダーシップなどの対人スキル、業務効率化のための知識などを、一度に実践で学ぶことができる。したがって、多くの医療従事者が自分の能力を試すために業界外へ出たい、と考えている今、自分がこれまで置かれてきた環境と、目指している業界の環境の違いをよく認識する必要がある。また、転職によるリスク(臨床技術の低下、先端医療知識からの落伍)もよく検討して判断する必要がある。

「変える」から「変わる」へ

新たな医療を切り拓く主導権は現場の我々が担うべきだと考えている。

パネルディスカッション要旨

それぞれの講演後、講演者4名によるパネルディスカッションが行われました。参加者に事前に配布された質問表及び、挙手による口頭での受け付けにより多数の質問が集まり、オープンな雰囲気の中での意見交換が行われました。

内容は、日本の医療システム全体に関してパネリストそれぞれの見地を尋ねるようなものから、具体的なキャリアに関するもの、臨床+ α に対する期待等の声などが寄せられました。本セミナーの趣旨であるキャリアの可能性を探るという点に関しては、全員がアメリカ留学経験者である講演者に対して、語学や現地での生活等について、より具体的な質問が多く集まりました。



懇親会要旨

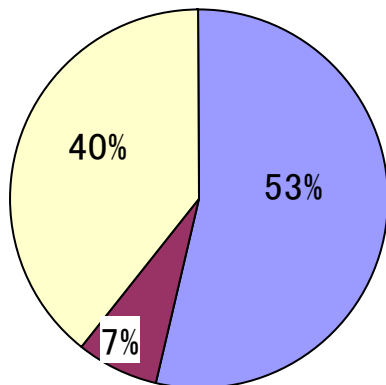
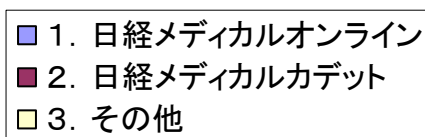
セミナー終了後、近隣の会場にて懇親会を行いました。こちらも70名を超える参加者が集まりました。

申し込みの際のメッセージから感じられた、人的ネットワークを広げるということに対する参加者の熱意によって、後援及び協賛団体の皆様、参加者、講演者、当日スタッフ等が語り合い、組織や役割を越えた歓談の場とすることができました。また、懇親会の終了時刻が過ぎた後も、会場の外でも引き続き交流が行われているほどの盛況ぶりで、今後もネットワーキングと言う観点からも、「臨床＋α」に求められている役割を再確認する場となりました。

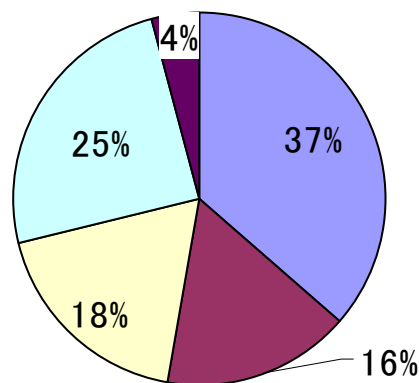
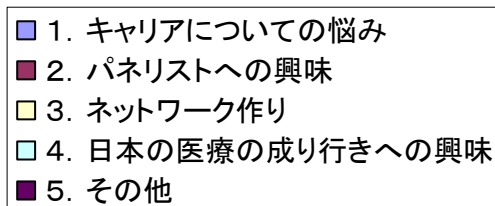
参加者の声 ～セミナー後アンケートから

出席者の約7割の方に、アンケート調査にご協力いただきました。以下は結果の一部です。次回開催への要望が非常に多く、参加者から会への期待の高さをうかがわせました。

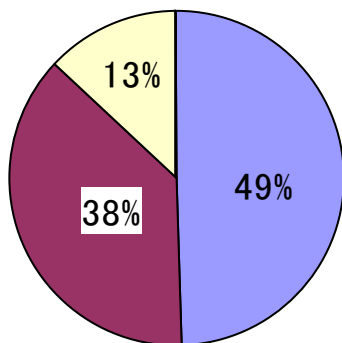
セミナーを知ったきっかけ



セミナーに参加した理由



セミナーに参加した感想



今後「臨床＋ α 」に期待すること

- このようなセミナーをもっと沢山開催して欲しい
- 今後も定期的にセミナーを開催して欲しい
- 関西でも開催して欲しい
- $+\alpha$ な薬剤師を紹介して欲しい
- もう少し時間があると良い
- 様々な分野での医療テーマのセミナーを開催して欲しい
- ネットでセミナー内容が見られる&参加出来るようにして欲しい
- 異業種との関連、他に様々な分野で活躍している方々の話をもっと聞きたい
- 国内で頑張っている $+\alpha$ な人も講演者として呼んで欲しい
- 医師偏在・不足についても考えて欲しい
- 日本を改善する為に、ビジネスと医療をもっと上手く結びつけるため、それをテーマ設定して欲しい



<http://www.rinshoplus.com>

本資料内容の無断転載はお断りいたします。
© 臨床+α